

2019年3月6日

主催（公財）ミズノスポーツ振興財団

「2018年度 ミズノ スポーツライター賞」受賞者決定

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団では、1990年度から「ミズノ スポーツライター賞」を制定しており、2018年度で29回目になります。この賞は、スポーツに関する報道・評論およびノンフィクション等を対象として、優秀な作品とその著者を顕彰するとともに、スポーツ文化の発展とスポーツ界の飛躍を期待し、これからの若手スポーツライターの励みになる事を願い制定したものです。

3月6日（水）、グランドプリンスホテル高輪で選考委員会を開催し、受賞作品および受賞者を以下の通り決定いたしました。

なお、この「ミズノ スポーツライター賞」の表彰式は、4月23日（火）にグランドプリンスホテル新高輪で行います。

【ミズノ スポーツライター賞 最優秀賞】（トロフィー、副賞100万円）

- ・『氷上のドリアン・グレイ』—美しき男子フィギュアスケーターたち—
(アーツ アンド クラブズ)
鈴木 ふさ子 (すずき ふさこ)

【ミズノ スポーツライター賞 優秀賞】（トロフィー、副賞各50万円）

- ・『挑戦者たち』—男子フィギュアスケート平昌五輪を超えて— (新潮社)
田村 明子 (たむら あきこ)
- ・『東欧サッカークロニクル』—モザイク国家に渦巻くサッカーの熱源を求めて—
(カンゼン)
長東 恭行 (ながつか やすゆき)

詳細は別記の通りです。

記

- 名 称： 2018年度 ミズノ スポーツライター賞
- 制 定 目 的： スポーツに関する優秀な作品とその著者（個人またはグループ）を顕彰し、スポーツ文化の発展とスポーツ界の飛躍を期待するとともに、これからの若手スポーツライターの励みになる事を願い制定
- 選 考 対 象： 主として新聞・雑誌・単行本などを通じて書かれたスポーツ分野の報道・評論・ノンフィクション等で、当該年度に発表されたもの
- 選 考 委 員：
- 委員長 河野 通和（(株)ほぼ日「ほぼ日の学校長」、『中央公論』『婦人公論』『考える人』元編集長）
- 委 員 上治 丈太郎（(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 参与）
- 〃 杉山 茂 （スポーツプロデューサー、元NHKスポーツ報道センター長）
- 〃 ヨーコ ゼッターランド（(公財)日本スポーツ協会常務理事、スポーツキャスター）
- 〃 高橋 三千綱（芥川賞作家）
- 〃 水野 英人（(公財)ミズノスポーツ振興財団 副会長）

※順不同

対 象 者：日本人および日本在住の外国人

受賞者及び選考理由：

【ミズノ スポーツライター賞 最優秀賞】

『氷上のドリアン・グレイ』－美しき男子フィギュアスケーターたち－

(アーツ アンド クラフツ)

鈴木 ふさ子 (すずき ふさこ)

「美しき男子フィギュアスケーターたち」という副題にあるように、フィギュアスケートで世界的に注目された内外5人の男子選手を取り上げ、その活躍ぶりや魅力を「文芸批評」の方法を駆使して描いた、これまでに類書を見なかった「アート視点のスポーツノンフィクション」である。

5人のスケーターの代表的なプログラムをめぐり、その選曲、テーマとなる物語をそれぞれがどう解釈し、それを自分のスケーティングとどう一致させるのかという表現者としての思索、フィギュアスケートの芸術的側面とスポーツ的側面（競技的側面）をいかにバランスよく両立させるのかというスケーターとしての価値観の模索からフィギュアスケートの奥深さを改めて知らされる。

フィギュアスケートは、意図を持って表現することを点数化して優劣を競う。自分なりの

表現を「プログラム」として観客とジャッジに提示するという難しさがある。それゆえ技術的に高度な様々な要素をこなすことばかりでなく、演技に物語性を持たせ、個性と芸術性を加えねばならない。本書はこれまでほとんど顧みられなかった文芸的視点による分析と解説が加わることで、フィギュアスケートの複雑な世界に新たな奥行きが付加された新境地の意欲作である。

【ミズノ スポーツライター賞 優秀賞】

『挑戦者たち』—男子フィギュアスケート平昌五輪を超えて— (新潮社)

田村 明子 (たむら あきこ)

本書は羽生結弦の連覇で平昌五輪が幕を閉じた後、今の男子フィギュアスケート界を支えている国内外のスター選手や、その礎を築いた往年の名選手や指導者を、「挑戦者」として群像的に紹介するものである。各章一人ずつとりあげ、「役者」がひととおりに揃ったところで、最終章(第9章)で平昌五輪男子フィギュアスケートの試合場面が再現される構成となっている。

本書のオリジナリティは、選手がどのような言葉で自分のスケートを語るのか、それを引き出す役割を著者が果たしていることにある。選手の話す一言一句を噛み砕いて、別の言語にできる限り忠実に変換していく通訳の過程そのものが、ライブのインタビューのようでもあり、それはリンクやTV画面上で目にすることのできる選手の身体パフォーマンスを通じたメッセージと同じくらい強く訴えかける彼らの言葉のメッセージとして貴重である。著者は日本選手を通してのみフィギュアスケート界を見てはいない。常に世界トップのフィギュアスケートに興味と関心の対象であり、日本選手は徐々にその円のなかに入って来たということだろう。トリノ、バンクーバー、ソチ、平昌と4大会連続で新潮社から出版しており、そのたゆまぬ取材とライティングの継続性も評価したい。

『東欧サッカークロニクル』—モザイク国家に渦巻くサッカーの熱源を求めて—

(カンゼン)

長東 恭行 (ながつか やすゆき)

本書は、2001年からザグレブに住み、その後はリトアニアに居を定め、サッカー取材を続けるライターの短編集である。

著者は、1997年24歳のとき初めてひとり旅で向かったクロアチアで、ディナモ・ザグレブの試合に感銘を受け人生観が変わった。銀行を辞めクロアチアに留学して言葉を身につけ、悪名高いサポーター集団BBB(バッドブルーボーイズ)にも入会する。BBBの活動を通じて若者たちの鬱屈と、その背後にある大国の思惑で国が分断され民族同士が排除し合い、憎しみ合う救いのない政治の現実を知るのである。サッカーは対立感情のはけ口になることが多いが、そのようなサッカー特有の歴史や地域ごとの立場に著者の理解は深く、手際よく経緯と現状を解説する。

著者は、サポーター軍団の一員として、または取材証を得ての取材や撮影として、これらの地域やそこでのサッカーをみてきた。政治や歴史の紹介はとても手際がよく、興味深く読ませ

る。政治とスポーツのナマな関わりを競技場の喧騒と白熱の試合の展開から浮かび上がらせ、日本ではあまり知られていない東欧諸国の実情をいきいきと描いている。

以上

(お問合せ先)

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団事務局 内橋・澤井 TEL. 03 (3233) 7009

ミズノ株式会社 コーポレートコミュニケーション部 小山・山本 TEL. 03 (3233) 7037